



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



駐日教皇大使の来鹿など報告

12月8日(日)に教皇大使歓迎ミサ

司祭評議会など三つの会議で

九月十六日(月)から十七日(火)にかけて、司祭評議会、教区司祭会、定例司祭集会と三つの司祭会議が教区本部で開催された。会議の席で報告されたのはジョゼフ・チエノット駐日教皇大使(七十歳)が十二月に鹿児島教区を訪問することだった。これは鹿児島教区に対する司牧訪問で、併せて創立八十周年を記念する鹿児島純心女子学園の記念式典出席のため、教区では純心学園と協力し、大使を迎えるための委員会を設置し、十二月八日(日)午前十一時からザビエル教会で大使とささげるミサや歓迎会の準備にあたっている。

また会議では九月十五日(日)ザビエル教会であった教区フェスタと夏休みの子ども大会の総括を行った。教区フェスタについて

は担当の寝占敦之神父が特に司教座献堂ミサに触れ「各教会の願いと祈りが共同祈願の中で教区全体の願いとしてささげられたこと意義は大きい」と報告した。また子ども大会については担当の泉浩二神父から「マリア山荘での開催だったが、今後人数が増えることを期待すると開催場所の検討の必要性も生まれるとの指摘があった。その上で、泉神父は「来年以降も継続

していききたい。司祭たちの子どもたちへの声かけが大切」と司祭たちに関心を持って欲しいと訴えた。また司教も特に子ども大会に触れて「十年先の教会のことを考えると子ども大会はぜひ継続して欲しい」と付け加えた。十七日の定例司祭集会の最後には、二十二日(日)の福音の分かち合いが行われ、司祭たちはみことばを胸に各教会に帰った。(報告・寝占敦之)

が可能。会議には平賀徹夫仙台教区長、濱口末男大分教区長を中心に写真の十五人が出席し、次のようなことが話し合われた。

- ① スタッフの確保
- ② 釜石ベース、大船渡ベースをはじめとするベース

心に二百六十人の信徒がカテドラルに足を運び、司教とともに教区のために祈りをささげた。ミサ中説教した郡山司教は、この日選ばれた福音から「独りよがりではなくイエスと共に喜ぶ生き方を選択しよう」とメッセージを送った。

充実の信仰養成講座を終える

奄美大島地区教会

奄美大島地区宣教・司牧を考える会主催「カトリック信仰養成講座」信仰を見つめ直そう。第二回は、名瀬聖心教会聖堂で開催されました。春に行われた第一回、二回に続き、今回は八月二十六日(月)午後九時三十分(土)午前の部まで、昼夜それぞれ五日間の集中講座でした。講師は、前回に引き続き

紫原教会主任司祭で鹿児島純心大学教授でもある竹山昭神父です。テキストは「カトリックの信仰」(鹿児島教区司祭評議会編 改訂第六刷)で、前回残した第四章「秘跡」と第五章「完成の日に向かって」について学びました。

今年の大島地区の夏は、例年になく猛暑が続き、講師の竹山神父は勿論のこと、

と、大学生の様には若くなくも、大学生の様には若くなくも、

五日程の集中講座はチャレンジの時となりました。旅する教会と共に歩みを進める私たち信者に、必要な力として与えられる「秘跡」を通して、「完成の日に向かって」私たち信者が抱き続けることのできる「希望」に對しても、常に神様の愛が注がれていることを、竹山神父のお話から感じ得ました。そして、私たちは神様の愛にどう応えるか、と。

毎回百人を超える受講者の熱心に耳を傾ける姿が

ら、その一つのこたえが感じられたかの様でした。竹山神父による講座は、計十五日間、二十三時間に及び、今回をもって終了しました。この貴重な学びを今後更に発展させ、活かすことが求められます。

来年度以降の復興支援担当者会議

東日本大震災復興支援担当者会議

九月四日(水)から五日にかけて十一回目となる「長崎教会管区東日本大震災復興支援担当者会議」が岩手県上閉伊郡大槌町で開催された。今回の会場となったのは新ベースになる大

槌町桜木町の一軒家で、この新ベースの視察が今会議の目的の一つでもあった。新しいベースは二階建てでカリタスジャパンからの支援金で内装を整え、十五人程度のボランティアの宿泊

が可能な。会議には平賀徹夫仙台教区長、濱口末男大分教区長を中心に写真の十五人が出席し、次のようなことが話し合われた。

① スタッフの確保
② 釜石ベース、大船渡ベースをはじめとするベース

心に二百六十人の信徒がカテドラルに足を運び、司教とともに教区のために祈りをささげた。ミサ中説教した郡山司教は、この日選ばれた福音から「独りよがりではなくイエスと共に喜ぶ生き方を選択しよう」とメッセージを送った。

「短信」

夏期集中講座

第二十二回夏期集中講座

(講師・竹山昭神父)が、八月十九日(月)から二十三日(金)までザビエル教会で開かれ、約九十人の信徒、修道者が「カトリックの信仰」について熱心に学習した。

▼聖心教会で堅信式
九月八日(日)奄美市の名瀬聖心教会(永山幸弘神

父)では、郡山司教を招き堅信式が行われた。

この日、堅信の秘跡を受けたのは子ども七人と大人八人の十五人。ミサ後は隣接する名瀬カトリックセンター三階で茶話会があったほか、同教会司牧評議会のメンバーと司教の初の懇親会も開かれた。

▼寝占敦之神父(教区本部)は、九月二十二日付けで玉里教会管理者

▼丸野六雄神父(玉里教会主任)は、司祭の家



①整えられて行く新しいベース
②平賀、濱口両司教を囲んで

敦之
「被災地便り」
秋風がとても心地よい季節になりました。仮設住宅での生活が二年半近くになつてきた被災者の皆さんが待ち望んでいた災害公営住宅が一部の地区で完成し九月初めに入居の運びとなりました。また別の地区でも三棟百五十一戸が来年度中に建設される予定です。

岩手県では復興ロードマップで水門、防潮堤、漁港、公共施設の再建や区画整理などについて年度別スケジュールを発表しました。まだまだ大変な現状ですが、力強い歩みを感じられています。(報告・川口茂)

北薩カトリック大会での体験発表② 病を通して培われたもの

川内教会 永田悦子

洗礼を受けて四年目のまだ未熟者です。でも私の罪が許され、平安が与えられ、そして病が癒された体験を通して、今喜びに満ちているという体験を聞いて下さい。

ガンの告知を通して、神は共に私の内において、ずっと以前から私が助けを求め願ひ出るのを今か今かと待たせておられたことに気づきました。この気づきが私の生き方をガラリと変えて下さったのです。今、この病は神が私に与えて下さった賜物と感謝しています。聖書にある「神は生きて一人ひとりのうちにおられ、愛し、罪人を救うため、病を癒すため、平和を与えるためにこの世に来た」というこの言葉が本当であったと確信しています。

二〇〇九年の四月のことでした。神戸の六甲教会で急に「洗礼を受けなければ」と胸騒ぎがし、洗礼を授かりました。しかし当時

の私はミサには二か月に一度程度、聖書を開いたこともなく「神」「主」「イエス・キリスト」「マリア」などの言葉を耳にはしませんでした。おまけに知人もいなくて、教会通いも負担でした。そうして一年が過ぎた二〇〇五年五月末、体調を崩して病院へ行つたところ「多発性骨髄腫」というガンの宣告を受けました。この血液が骨を砕いて骨粗しょう症となつていくという病は、完治不能で、助かる道は抗がん剤投与と進行を遅らせるだけのことです。その場で死の宣告を受けたように感じました。他の病院でも診察しましたが答えは同じでした。

懸命に働き、職場に尽くし、喜ばれていたと思つていた私でしたから「どうして私が」と慌てて、助かる道を探そうと本を買いました。民間療法、温泉と試みたりもしました。そして

隠しておいたため何の儲けを得ることができませんでした。では、もし、この僕がお金を増やそうとして商売をしたもの、それが失敗に終わりお金が減つてしまつたとしたら主人はどのような態度を取るでしょうか。おそらく主人はこの僕を追い出すことはしなかつたでしょう。このように考えると、主人はこの僕が何

すべての頼みの綱が切れ、途方に暮れ始めた頃、聖書の中に「神の癒し」があったことが頭をかすめ、助かる道は「鹿児島のカトリック教会だ」という思いが湧き出て来たのです。そして姉の勧めもあつて急遽鹿児島に帰つてきました。

二〇一〇年の十月中旬、血液がつかれないため手足は氷のように冷たくなつていた私は、ホッカイロを数個つけてザビエル教会で祈りをささげていました。「愛の泉」のとりなしの祈りとの出会いでした。その祈りを続けていくうちに体調は少しずつですが回復していき、そして祈りが一番の楽しみへと変わつて行きました。そしてそれは祈りからどんなに平安が与えられるかを知ることになりました。

そしてそこでのいろいろな人との出会いが、私を大きく変化させたのです。アメリカ人のシスターステファ

もしなかつたことを責めたのだと言えぬのです。確かに、私たちは時折、自分に才能や能力が足りないことを嘆いてしまうものです。しかし、もしそうで

ン、郡山司教からの不思議な癒しのハンカチ……。ローマ・イタリア・フランス・アシジの十八日間の巡礼、アイルランドの五カ国合同のとりなし二十日間の巡礼、韓国巡礼、ミオ・バラダの黙想会、宝塚の黙想会、尾崎の聖霊刷新大会、そして昨年十二月のローマ巡礼での教皇様との謁見などなど、この二年半あまりで目まぐるしく動き回り、そして神との出会いを体験しました。この病、愛の泉のとりなしの祈りのおかげで、普通では到底出合うことのできない貴重な事柄、人々と巡り会うことができたのです。そしてその出会い、発見の度に元気が戻つてきました。

これまでの出会いの中で頂いた素敵な言葉を二つ紹介したいと思います。

①あなたの病氣は、神が与えた病、これまで何度も神が呼ばれていたのに、「仕事、仕事」とこたえずにいた。だから仕事から手を引かせるために、神はガンという病を与えられた。この病の行く末は、あなたの神への信仰次第。

ご自分が与えられた力を十分に使つて生きることを私たちに望まれています。ならば、自分の才能の足りなさを嘆くよりも、その足りなさゆえに神様の御心に適つた生き方がしやすいことを感謝すべきかもしれませぬ。だからこそ、力を尽くすことを忘れてはならないのです。「やればできる」とよく言われますが、何かをやつたからといって必ずできるわけではありませぬ。しかし、「やらなければできない」ということは確実に言えます。

文芸

短歌

鹿兒島純心 川上 和
よみがえる往時のザビエルそのままに名
残の森のシンボルとなり
出水教会 遠竹 睦郎

パウロてふ霊名つけて外つ国のドイツの
神父より洗礼受けぬ
敬老の祝福受けて共に和す教会の宴いと
も楽しき
奄美市 林 常広

ぼつぼつと紅葉はえし奄美の森秋の風か
な吾れ涼しけり

俳句

鹿兒島市 徳永ノブ子

秋天に平和の鐘の響く街
夕立も恵みの雨となる日和
日射し落ち秋めく風の通り抜け
鹿兒島純心 川上 和

百日紅恩師の思い夕日に照る
出水教会 沖 弘子

秋の蟬鳴ひてクルスの庭澄めり
国分教会 政 ノブ子

私たちは神様からそれぞれに必要な才能を与えられています。そのことを信じて生きていくのか否かが問われているのです。ユダ王国が苦境に陥つたとき、預言者イザヤは王に「信じなければ、あなたがたは確かにされない」と進言しました（イザヤ7・9）。自分の才能や能力について悩むとき、このイザヤの言葉とタラントンのたとえを思い出し、自信をもって地味な努力を続けたいものです。



前に洗礼を受けて下さったのです。神は私に必要な時を一つひとつ、それもゆつくりゆつくり順序よく、ステップを踏ませて与えて下さつていたのであります。今、そのことに気づいて感謝しています。神の恵みには時があり、人間はそれを逃しては駄目なのです。事が起きてどんなに慌てても、自分でどうにかしよう、金で解決しようとしたところで、私たちは主のみ手の中にありますから、すべては神のみ業次第で、人間の力ではどうすることもできないと悟らされました。それは「神の業がこの人に現れたためである」（ヨハネ9）です。神の業によつてガンを通して、神は私に現れ、私の目を開かせて下さったのです。ですから今、神に感謝、ガンに感謝です。

ヨハネ十五の十六には「私があなた方を選んで」とあります。ガンという病の贈り物を頂き、黙想しながら神との出会いを得たことは、自分のプライド、優越感、自己満足、地位、金を得るためだけに目を向け、それが人生の目的であり幸福と思ひ込んでいた価値観がいかに空しく、それ

はサタンにどつぱり身を任せていたということに気づきました。まさに危機一髪の気づきとなりました。毎朝最初に「今日一日をすべて主に委ねます。僕として主のみ旨の通り、私を道具としてお使い下さい」と祈ります。すると聖霊が一日中一緒にいて下さるといふ安心感に満たされ平安で何の心配もなく、ただただ喜びに満ちた一日を過ごしている今の私です。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい」私が大好きな歌です。ありがとうございます。

お知らせ

▼かごしま県民大学・鹿兒島国際大学連携講座「教会音楽コンサート」日時・10月6日（日）14時 場所・霧島国際音楽ホール 入場料・一般二千円 学生千円
▼イエズス会・エルナンデス修道士のホリスティック講座「愛と許し」一教師五十三年の経験から
日時・10月21日（月）10時 場所・ザビエル教会 受講料・五百円

